

授業展開案 高等学校地理歴史「日本史 A」

1 テーマ

大戦景気と民衆の窮乏

2 I C T 利活用のねらい

大戦景気について、I C T 機器を用いて複数のグラフや図を関連づけて表示することによって、大戦景気の特徴について多角的・多面的に考察させるとともに、諸資料の読み取りを通じて資料活用の技能を育ませる。

3 利活用する I C T 機器及びソフトウェア

①機器：電子黒板，学習者用端末

②教材：「大戦景気」(Microsoft PowerPoint)

「人口増加率(1913-1918)」(Microsoft Word)

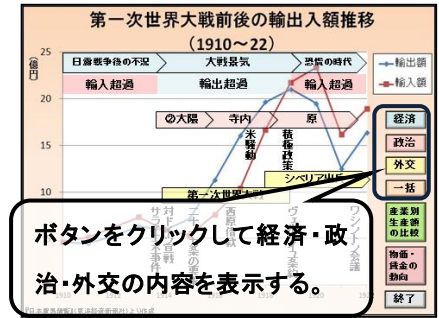
4 I C T 利活用の場面

学習内容	I C T 利活用の場面
<p>大戦景気により，貿易額が急増し，輸出超過に転じたことを読み取る。</p> <p>重工業・化学工業が発展し，工業生産額が急増したことを確認する。</p> <p>地図資料に気付きを描画することを通じて，重工業の発展が与えた影響について考える。</p> <p>重工業に関わる工場などの立地から，重工業の立地が主に太平洋側に集中したこと，それによって主に太平洋側の都市人口(=消費生活者人口)が増加したこと等を確認する。</p> <p>消費生活者人口の増加の影響もあり，物価の高騰したことで好景気にもかかわらず民衆が窮乏し，貧富差が拡大したことを考察する。</p>	<p>①説明の補助：「第一次世界大戦前後の輸出入額の推移」を表示する。</p> <p>②動機付け：「産業別生産額の比較」を表示し，その影響は何かという疑問をもたせる。</p> <p>③表現活動：学習者用端末に「人口増加率」の地図を配布し，生徒に描画させ，グループ機能を活用して活動内容を電子黒板に表示する。</p> <div data-bbox="1123 1335 1410 1554" style="text-align: center;"> <p>人口増加率(1913-1918)</p> </div> <p>④説明の補助：「人口増加率」「重工業の発展」を表示する。</p> <p>⑤説明の補助：「大戦景気中の物価・賃金の動向」を表示する。</p>

5 ICT利活用のポイント

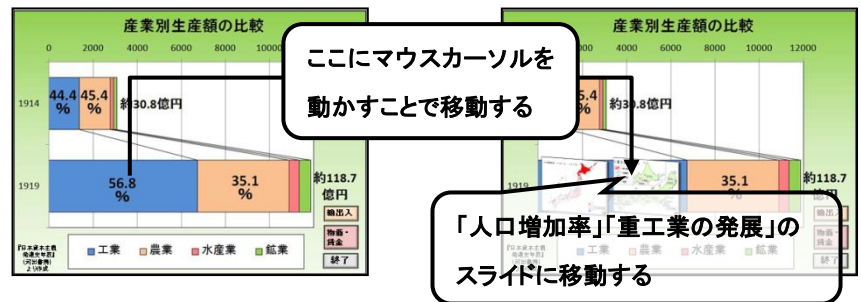
①説明の補助

教材「大戦景気」の「第一次世界大戦前後の輸出入額の推移」を用い、大戦景気中に日本が輸出超過に転換したことを読み取らせるとともに、経済の動向を政治・外交の動向と関連付けて説明できる。関連付けする際には、必要に応じて電子ペンで線や歴史用語を書き込みながら説明する。



②動機付け

教材「大戦景気」の「産業別生産額の比較」を用い、工業生産額が農業生産額を上回り、日本が工業国に転身したことを読み取らせ、太平洋側の発展や労働力の移動など工業化の影響を考える動機付けに活用する。



③表現活動, ④説明の補助

学習者用端末に教材「人口増加率の地図」(地理情報分析システム「MANDARA」で作成した階級区分図を貼り付けたもの)を配布し、特徴的な地域について電子ペンを用いて囲わせる。工業の発展が労働力移動(=人口移動)を引き起こし、それが主に太平洋側の人口の増加につながっていると仮説が成り立つことに気付かせる。生徒の活動を電子黒板にも表示したり、学習者用端末のグループ機能を活用して討論の場を設定したりするなど、言語活動をより充実させる学習指導の設定も可能である。解説の際には教材「大戦景気」の「人口増加率」(図1)「重工業の発展」(図2)のスライドを用い、電子ペンを活用しながら説明する。

図1 「人口増加率」

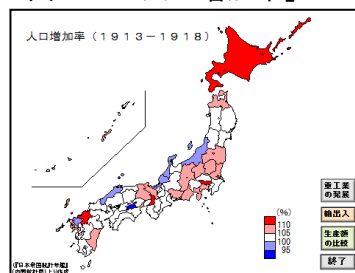
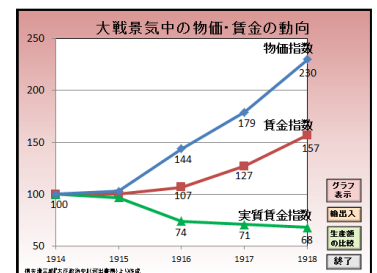


図2 「重工業の発展」



⑤説明の補助

教材「大戦景気」の「大戦景気中の物価・賃金の動向」を用いる。「実質賃金の低下(=民衆の窮乏)」について、折れ線グラフを個別に表示させることによって、「好景気であるのに民衆が窮乏している」という意外性に気付かせたり、考察させたりする場面に活用する。



※参考URL: <http://ktgis.net/mandara/index.php> (地理情報分析システム「MANDARA」)